

## ■ 沖縄県の役割（保健医療部地域保健課）

- ① 新生児聴覚検査体制整備協議会の開催、普及啓発、研修会の開催など、沖縄県における新生児聴覚検査の推進体制の確保を行います（琉球大学病院 きこえの支援センターへ業務委託）。
- ② 検査費用の公費負担ができるよう市町村に働きかけます。

## ■ 保健所の役割

- ① 新生児聴覚検査体制が機能的に働くよう管内市町村や医療機関との連絡会議などの場における情報共有や市町村支援を行います。

## c) 療育施設・教育機関

### ■ 療育施設

- ① 児への支援
  - 子どもの発達に合わせた聴覚学習や言語訓練、構音訓練を行います。
- ② 保護者への支援
  - 耳鼻咽喉科の診察で質問できなかったことやその他 日常生活での疑問などに対応していきます。
  - 家庭でのかかわり方や環境作りなどを伝え、保護者や家族が安心して子育てができるよう支援します。
- ③ 関係機関との連携
  - 子どもが通う保育所や児童発達支援事業所などへの訪問指導を行い、また、教育機関や市町村との連携を図り、子どもや保護者を多角的な面から支援を行えるように努めます。

### ■ 教育機関（沖縄県立沖縄ろう学校）

新生児スクリーニングが行われるようになってから、最早期からの補聴器等の装用が可能になり、聴覚に障害のあるお子さんの「きこえ」の世界が広がってきています。こうした中で、聴覚に障害のあるお子さんが、補聴器等の装用に慣れ、言語力、日本語力を高めるためには、より早い時期からの支援・教育が大切です。

また、早期支援・早期教育における保護者の果たす役割は非常に大きいです。毎日の生活の中で、お子さんに色々なことを経験させ、意図的にお子さんに働きかけることで、お子さんの「きこえ」の力を高め、「ことば」を獲得するチャンスを広げていくことが大切です。

沖縄ろう学校の乳幼児教育相談「ひまわり」は、お子さんの「きこえ」と「ことば」を親子での触れ合いやお子さん同士の関わりの中から育ていけるよう、個別や集団での相談の時間を設定しています。そして、お子さんへの関わり方や「きこえ」と「ことば」をどう育てていくかに

## II. 聴覚障害児の早期発見・早期療育の意義

ついでに情報を豊富に提供できるように相談体制づくりをして、聴覚に障害のあるお子さんと保護者に対し継続的で適切な支援を行っています。

### ① 乳幼児教育相談の概要

沖縄ろう学校では、早期からの相談支援として、就学前の 0～2 歳児の乳幼児やその保護者に対して継続的に教育相談（乳幼児教育相談「ひまわり組」にて）を実施しています。

乳幼児教育相談では、聴覚に障害のあるお子さんの「きこえ」や「ことば」への気づきや育ちを大切にしながら保育活動を行っています。

また、保護者が、補聴器等を装用して得られる「きこえ」について理解しながら、「きこえを大切に、ことばが育つためにはどのように関わればいいのか」「子どもが子どもらしく育つためにどのような生活をしていけばいいのか」「どのようにコミュニケーションを図ればいいのか」等、我が子の聴覚に障害があると分かってからの不安な思いや複雑な心情にも寄り添い、お子さんの育児全般についても保護者が学べるよう相談・支援を行っています。

### ② 相談・指導の内容と指導形態

乳幼児教育相談の内容としては主に次の5つがあります。

ア 「きこえ」と「ことば」についての相談

イ 親子の関わりを基本としたコミュニケーションの方法についての支援

ウ 静かな環境の下での音遊び等を通じた聴覚活用の支援

エ 同じ悩みを持つ保護者の方々が互いに話し合える場の提供

オ 保護者学習会を通じて、聞こえない・聞こえにくいお子さんの保育全般についての支援

相談・指導の形態として、乳幼児 0 歳～2 歳とその保護者に対し、午前にグループ活動や個別指導、また午後は 0 歳～2 歳の初回相談や 3 歳～5 歳の就学前幼児への相談・支援を行っています。

### ③ グループ活動の内容

「ひまわり組」（0 歳～2 歳児）では、心身の健康や人間関係、基本的な生活習慣の育成など、子どもの全体的総合的な発達を図ることを目標に活動しています。

グループ活動は、週に 1～2 回、親子で、声出し遊び、手遊び、リズム遊びや絵本・紙芝居などを行っています。また、季節の行事として、幼稚部（3 歳児～5 歳児）との合同活動も行っています。

特に聴覚活用においては、保護者に補聴器等を装用することの大切さを確認しています。補聴器や人工内耳により子ども達は周りの音に気づく事ができますが、その音を理解するためには、周りの生活音や自然の音、音楽、話し言葉等を毎日の生活の中で繰り返し聴かせてあげる事が大切であり、それが乳幼児の「きこえ」の力をたかめ、「ことば（言

語力、日本語力)」、「コミュニケーション力」を育てることにつながっていることを伝えていきます。

#### ④ 個別指導の内容

個別の指導場面においては、まず補聴器等を装用することに慣れることから始め、お子さんへの関わり方や言葉かけのポイントなどを保護者にお伝えします。お子さんが、身の回りの音や声に関心をもち、保護者や身近な人と楽しんで聞くことができるよう、音への気づきの大切さや具体的に音の出るおもちゃの見せ方（見せるタイミング等）のモデルを示しながら、お子さんの聴覚の反応を確かめることができるよう支援を行っています。

保育士や関係者に対しては、保育園や幼稚園等の集団の場での補聴器や人工内耳等の扱い、環境調整についてアドバイスをしています。

また、お子さんの聴力の程度や発達段階に応じて、指さしや表情、身振り、サインなど、トータルなコミュニケーション手段を活用しながら、お子さんと保護者が、「ことば」を共有したり、伝え合ったりすることができるよう支援します。「きこえ」や「ことば」と併せて、お子さんの発達全般や子育てについても相談に応じています。

#### ⑤ 関係機関との連携・協働

医療・保健・福祉・療育・教育機関との連携・協働を通して、地域における聴覚障害教育のセンター校として役割を果たしていきます。

主に琉球大学病院や他の医療機関からの紹介及び保健・療育・教育機関からの情報提供のもと、聴覚に障害のある乳幼児期のお子さんの早期のフォローアップに積極的に関わり、保護者の心理面やニーズ等を支援していきます。

また、聴覚に障害のある乳幼児期のお子さん支援について、保護者の了解を得た上で、関係する言語聴覚士や市町村保健師等と情報を共有し、協働して、支援・教育に取り組んでいきます。その他、研修会等を通して、行政機関の保健師や相談員との連携を図り、聴覚に障害のあるお子さんの乳幼児教育相談につなげるとともに、聴覚障害の早期支援・早期教育の理解と啓発を図っていきます。

### d) 患者団体（沖縄県聴覚障害児を持つ親の会）

#### ① 設置目的

私ども「沖縄県聴覚障害児を持つ親の会」は、聴覚障害児に対する最適な教育と福祉及び社会生活の向上を図るための支援と会員相互の研修、親睦を深めることを目的に1984年に設立しました。

設立から今日まで、社会の理解も進み、補聴器の性能も向上し、人工内耳のお子さんも増え、また、教育・福祉についても様々な制度が充実してきており以前と比べれば大分生活しやすくなりました。しかし、聞こえない・聞こえにくい子ども達や家族にとっては、まだまだ十分な環境とはいえず、子どもの成長に合わせ医療・教育・福祉など様々な

## II. 聴覚障害児の早期発見・早期療育の意義

悩みが尽きません。

これからも親同士が手を携え、「聞こえない」「聞こえにくい」子ども達のより良い社会環境作りに取り組み続けることが必要です。

親の会にはキャンプなど体験・遊びが中心の事業が多くあります。

「聞こえない」「聞こえにくい」子ども達にとって体験・経験することは語彙を増やし、日本語獲得や情緒発達にとっても大切なことです。また、会員の皆さんが情報交換をしたり、ミニ講演会では先生方から指導助言を得ることができます。そして、もう一つ大事なことが「きょうだい支援」です。

親として子ども達に平等に接しているつもりが、他のきょうだいからはひいきしているように映るようです。各事業をとおし、同じ境遇のきょうだい達が集い交流することで「自分だけじゃない」と気付き、また、新しい発見をすることで大きく成長していきます。

最後に、個々の障害に違いはあれ、大きな可能性を秘めた子ども達に変わりはありません。同じ立場、境遇の中で、親でしかわからない悩み、不安を気軽に打ち明けられ解決の糸口を見出せる、そんな親の会になりたいと日々活動を続けております。

ご両親の心の安定がなによりも子どもの成長には大切です。

ご両親、そして、子ども達のために親の会があります。

### ② 保護者の方へ

お母さん、一人で悩んでいませんか？

お子さんの異変に気付き、幾度となく病院へ通っては検査を受け、結果を待つ間の不安は言葉に言い表せるものではないと思います。

診察を終え、あなたのお子さんは「聞こえない」「聞こえにくい」「聞こえに障害があります」と医師に告げられ大きなショックと絶望感に襲われ「どうして私たちだけ」「治療したら治る？」「この先、どうしたらいいの」と心は動揺し、ときには激しく自分を責めていませんか？

心配した看護師や他の医療スタッフから声を掛けられても心には届かず、精神的に不安定な状態になるのが現状だと思います。

不安で押し潰されそうになりそうなときに同じ境遇、心境で家族に寄り添うことができるのが親の会です。

聴覚障害は、とりわけ早期発見・早期療育・早期教育がとても重要となります。といっても障害に気付いたご両親にとって何から始めればいいのか分からない。インターネットでは様々な情報を検索できますが、ややもすると自分に都合のいい偏った情報を見がちになります。

親の会には、子育て中のお母さん方から、高校、大学、社会人へと立派に子育てをなさったお母さん方など、様々な年代のお母さん方が集まっています。

皆さんが、今、悩んでいることも先輩お母さん方は既に経験されてきています。先輩お

母さん方と話しをするだけで、きっと何らかのヒントが得られ、心が軽くなると思います。

一人で悩まず、気軽にご相談ください!!

#### e) 琉球大学病院 きこえの支援センター (VI. 参照)

- ① 二次聴力検査・精密聴力検査の日程調整
  - 新生児聴覚スクリーニング検査機関や二次聴力検査機関から精密聴力検査の受診日の調整依頼が届いた際は、二次聴力検査機関・精密聴力検査機関と日程調整を行い、受診日を依頼施設へ伝えます。
  - 乳幼児健診や医療機関にて聴覚障害が疑われ、精密聴力検査の受診日の調整依頼が届いた際も同様に日程調整を行い、受診日を依頼施設へ伝えます。
- ② 保護者・関係機関からの相談窓口
  - 新生児聴覚スクリーニングに関すること、聴覚障害および補聴器・人工内耳・人工中耳など、また療育についての相談に対応し、情報提供を行います。
  - 関係機関より要望があればスタッフ（言語聴覚士）を派遣し、現場で状況を確認し、情報提供を行います。
- ③ 保護者・関係機関に対する研修会開催
  - きこえや聴覚障害について、補聴器や人工内耳・人工中耳などに関する勉強会を定期的で開催します。
- ④ 新生児聴覚スクリーニングの精度管理
  - 毎年 産科医療施設や周産母子医療センター、精密聴力検査機関へ、年間の検査件数などを調査依頼し、県内の検査件数および偽陰性・偽陽性、自己中断件数などの精度管理を確認します。
- ⑤ 県内の聴覚障害児の把握
  - 最終的に聴覚障害と診断された児の補聴や療育について毎年確認し、県内の聴覚障害児の動向を把握します。